

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年3月1日
学) 清瀬学園 きよせ幼稚園

1. 本園の教育目標

強く＝健康でたくましい心と身体の子＝最後までやりぬく体力・気力＝忍耐力
正しく＝正しく話し、正しく行動できる子＝人と上手にコミュニケーションをとる＝社会性
美しく＝おもいやりのある美しい心の子＝気持ちをうまくコントロールする＝感情コントロール

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

令和3年度より本格的に取り組み始めた保育内容の見直しから4年目となる。これまでの反省を振り返りながら、新体制の組織づくりを進めていく。
在園児の一時預かり事業と未就園児の一時保育を行ってきているが、卒園児の学童という視点では、まだ需要に応えることが出来る園内のシステムがないので、令和7年4月1日開設に向けて準備をしていくことを重点事業として取り組んでいく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	組織体制作り	A	理事長・園長が交代となり初年度となる。ここ数年の保育内容の見直しを中心的に行ってきた学園主任や保育主任・教務主任が組織の軸となっていることや、ちゃいるど保育園との連携により、層の厚い組織となっている。今後は業務効率に向けた取り組みを行っていききたい。
2	きつつフル教材の活用	C	一斉活動で行いやすい教材や自由遊びで活用しやすい教材があるので、個々の教材を場面に合わせて上手に使っていききたい、きつつが活用しやすい環境づくりを次年度は進めたい。
3	保育の可視化	B	保育の可視化については、これまでの活用方法を振り返り、運用方法を見直すところもあった。来年度に向けては、クラスだよりをよりドキュメンテーションの本来の形として発信していくことを目標としたい。
4	0・1・2歳児保育の充実	A	一時預かり一般型については、認知度も少しずつ上がり利用者が増加傾向にある。プレスクールと一時預かりをうまく活用できるようなシステム構築を行っていききたい。
5	学童保育計画	B	株式会社明日葉へ学童保育の運営委託契約、株式会社ジャクエツへ学童保育の施設改修契約、その他細かなところについては、各業者へ発注し、無事10月1日よりプレオープンがスタートした。 4月までに会員25名を目指す。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果（令和7年3月実施）

評価	理 由
A	組織づくりについては、学園主任や保育主任・教務主任等を保育の見直しを行ってきている教職員を軸に、各ミーティング機会を増やし、教職員間のコミュニケーションを大切に進めてきたところは、評価できる。業務分掌については、未だ課題がある。 東京都財政支援団体等監査について、今年度対象施設となった。実地検査前指導を踏まえ、監査に臨んだが、特段指摘事項もない結果となった。 学童も無事、令和7年4月よりスタートする運びとなり、受け入れがスタートする。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	組織体制作り	新体制 2 年目となる。業務分掌の課題をクリアするとともに、引き続きどのライフステージでも働きやすい環境構築を行っていく。
2	きつつフル教材の活用	きつつをより効果的に活用できる環境整備を行う。課外教室で使用している保育室を改修し、アトリエとして使えるような環境を目指す。
3	保育の可視化	現在運用しているドキュメンテーションの方法より、より本来のドキュメンテーションとして保護者と共有していけるように園全体での共通理解をしていく。（継続）
4	一時保育の充実	一時保育について、担当保育士を 1 名増員し、実施日数を増やし、子育て支援を充実させる
5	学童保育の安定運営	内容充実・効果的な広報に努めることにより、目標会員 40 名、1 日 20 名程度の受け入れを目指す

※次年度予定事業

けやき通り沿い看板更新事業

木の街並み創出補助事業を利用した外構フェンス更新事業

園庭改修事業（木道の設置）

課外利用保育室改修事業

HP 更新事業

こども BASE 滑り台追加工事 等

6. 学校関係者評価委員会の評価

新体制となり 1 年目の年となったが、きよせ幼稚園の保育について中心になって見直しをしてきた教職員が、学園主任や保育主任、教務主任となり、組織の軸となって、まとめて頻繁に会議を開きコミュニケーションをとっているのが、教職員が働きやすい環境となっていることが感じられる。年々と教職員の人数が増加している組織なので、課題である業務分掌を解決してほしい。

今年度は東京都財政援助団体監査の対象施設となったが、特段指摘事項が無いという監査結果であったと報告があった。引き続き、適切な会計処理に努めてほしい。

重点事業であった学童保育については、無事令和 7 年 4 月 1 日より開校出来ることになり、会員数も初年度見込みと若干少ないがほぼ同数とのことである。学童保育の内容充実・子育て支援の内容充実をしてその内容の広報活動を行うことから、会員数増加を図り、安定的な運営を目指してほしい。

その他の課題感についても、次年度の対策が練られているので、計画倒れにせず実行に移し、課題解決に向けて取り組んでもらいたい。

子どもたちが毎日楽しく過ごせるように、働く教職員が気持ちよく働けるように、そして、地域の子育て支援センターとして、質の向上を目指し、次年度以降も運営していくことを期待する。

以上